

2016年3月期 第2四半期決算 電話カンファレンス

主な質疑応答

日時：2015年10月30日（金）13:30 ～ 14:15

出席者：取締役 常務執行役員 業財務部門長 浜田 昭博

経営企画室 広報・IR グループリーダー 小林 太郎

1. トクヤママレーシア (PS-2) について

Q1：設備改良の進捗、今後のスケジュールを教えてください。

A：定修前に一部の装置で行った改良工事により、4～6月に50%程度であった稼働率が、8～9月には60～65%程度に改善しました。同様の改良工事を10月からの定修期間中に全ての装置で実施します。定修後の12月初旬に設備を再稼働し、12月中旬以降に多結晶シリコンの析出が始まります。析出量を段階的に増やし、来年3月には稼働率を80%程度まで引き上げる計画です。

Q2：太陽電池向け多結晶シリコンの足元の需給動向を説明いただけますか？

A：現在、当社にもそれなりの引き合いはあります。グローバルでは、太陽電池向け多結晶シリコンの需要は、当面は右肩上がりで見えています。未だ供給過剰が解消されていないことから、市況はもう少し様子を見る必要があります。

2. 半導体向け多結晶シリコンについて

Q3：半導体市場に減速傾向が見られますが、今回修正された年間見通しの達成の確度はどのくらいでしょうか？

A：多結晶シリコンについては、期初計画から大きく変わることはないと考えています。

3. セメント事業について

Q4：下期の数字を強めに見ているようですが、達成の確度はいかがでしょうか？

A：上期はセメントの販売数量が予算比でもショートしましたが、下期は拡販に努め、通期では前年並みの数量を維持しつつ、廃棄物の引き取りや石炭安等により収益を確保する計画です。

4. 国産ナフサ価格下落の影響について

Q5：2Q決算における国産ナフサ価格下落の影響を教えてください。

A：国産ナフサ価格下落に伴い、一部石化製品の販売単価は軟化したものの、一定のスプレッドを確保することができ、輸出を中心に損益が改善しました。

以上